

## もしも、のために知りたいこと

- 定期の予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要になったり、生活が不自由になったりしたとき(健康被害)は、法律に定められた救済制度(健康被害救済制度)があります。
- 制度の利用をしこむときは、お住まいの市町村にご相談ください(制度を利用するためには、一定の条件があります)。

※詳細は、厚生労働省HPをごらんください。「予防接種 救済制度」で検索できます。

### シリーズのご紹介

このリーフレットは、法律ですすめられている定期接種のうち水痘ワクチンを「きょう」接種するお子さんと、その保護者のみなさまのために、かならず知っておいていただきたい内容をまとめたものです。

そのほかの定期接種についてまとめたシリーズと、あわせてお読みください。



各リーフレットは、厚生労働省HPおよび予防接種リサーチセンターHPからダウンロードできます。  
「予防接種 リーフレット」で検索できます。

### くわしくは

「予防接種と子どもの健康」  
(発行:公益財団法人予防接種リサーチセンター)

をごらんください。



医療機関名



# キヨウヨノワクチン

きょう 予防接種をうける  
お子さんと、保護者のみなさまへ  
水痘(水ぼうそう)ワクチンのはなし



#07

2-3

きょう

# の予防接種を安心してうけていただくために

#07 水痘ワクチンのはなし

水ぼうそうの  
ワクチンも定期接種に  
なったんだ!



## 水痘ワクチンって?

- ◆水痘は、ウイルスにふれたり、ウイルスを口や鼻などから吸いこんだりすることで感染する病気です。うつりやすい病気で、一人がかかると、家族やまわりの人たちに広がってしまうこともあります。
- ◆水痘にかかると、熱がでたり、なかに水が入ったぶつぶつができたりします。まれですが、重くなると命にかかることもあります。
- ◆水痘ワクチンを接種することで、体のなかに水痘への抵抗力(免疫)ができます。
- ◆水痘ワクチンを1回接種すれば、水痘にかかることはあるものの重症になることはほとんどなくなり、2回接種すれば、水痘にかかることもほとんどなくなるといわれています。
- ◆このワクチンは1歳になってから接種し始めます。

○予防接種をうけても、お子さんの体質や体調によって完全な免疫ができないことがあります。

1

当日は  
ココをチェック



- ◎お子さんの体調はよいか、熱があつたり、ふだんと変わったところはないか確認しましょう。
- ◎心配なことがあるときは、医師に相談しましょう。質問をメモしておくと伝えやすくなります。
- ◎母子健康手帳はかならずもっていきましょう。

◎小さなお子さんは動かないように、しっかりと抱っこしてあげてください。保護者のみなさまがリラックスすると、お子さんも安心します。

◎注射で泣くお子さんは多いもの。大切な予防接種が苦手にならないように、がんばったことをほめてあげるなど、保護者のみなさまの工夫がカギです。

2

ワクチンを  
接種するときの  
ポイント



3

接種後の  
注意

◎接種直後、30分くらいはすぐ対応してもらえるように、医療機関のなかでお子さんの様子をみてあげるか、すぐに医師と連絡がとれるようにしてみてください。この間に急な体の変化がおこることがあります。

◎帰宅後もはげしく体を動かすことはさけさせ、接種個所をきれいに保ってあげましょう。

◎おふろには入れてもかまいませんが、接種個所をこすらないでください。

予防接種をうけたことは将来、その病気に対して免疫があることを示す大事な記録となります。母子健康手帳は大切にとっておきましょう。

## おこるかもしれない体の変化(副反応)

- ◆健康な子どもや大人では、ほとんど体の変化はみられませんが、ときに熱がでたり、ぶつぶつができたりします。
- ◆まれに接種個所が赤くなったり、はれたり、かいたくなったりしますが、数日で消えます。
- ◆きわめてまれにアナフィラキシー<sup>1)</sup>、血小板減少性紫斑病<sup>2)</sup>などの重い病気にかかることがあるともいわれています。

1)アナフィラキシー：激しいアレルギーにより、じんましんができたり呼吸が苦くなったりします。

2)血小板減少性紫斑病：かさぶたをつくる働きの血小板の数が少なくて、出血しやすくなってしまいます。皮膚の下で出血して青あざができたり、歯ぐきから血がでたりします。

○予防接種をうけた後、気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐ医師に相談してください。



# 高齢者肺炎球菌予防接種をご希望の方へ

## ◇23価肺炎球菌ワクチン

### 1. 病気の説明

肺炎球菌による肺炎は、成人肺炎の25～40%を占め、特に高齢者での重篤化が問題になっている。

肺炎球菌は肺炎、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎、髄膜炎などを起こす細菌の一つです。特に、高齢者の肺炎の約半数は、肺炎球菌が原因とされています。

### 2. 肺炎球菌ワクチン予防接種とは

高齢者の肺炎の中で、最も頻度の高い「肺炎球菌」という細菌感染を予防するワクチンです。肺炎球菌には、80種類以上の型がありますが、肺炎球菌ワクチン接種により、そのうち23種類に対して免疫をつけることができます。接種により、肺炎球菌による肺炎の8割に効果があるといわれています。ただし、肺炎球菌ワクチンは、肺炎のすべてを予防するワクチンではありませんが、接種することによって、重症化防止などの効果が期待されます。

### 肺炎球菌ワクチンの効果

で免疫効果は5年以上にわたって持続するといわれています。

肺炎球菌に対する免疫ができると、肺炎にかかっても軽い症状ですむ効果があります。

### ワクチンの副反応

副反応としては、注射部位の腫れや、痛み、熱感、発赤が5%以上認められる。筋肉痛倦怠感、違和感、悪寒、頭痛、発熱もあるが、いずれも軽度で2～3日で消失する。

### 接種スケジュール

○このワクチンは1回0.5mlを筋肉内又は皮下に注射します。

○健康な人では少なくとも接種後5年間は効果が持続するとされており、インフルエンザワクチンのように毎年接種する必要はありません。

※過去5年以内に接種を行ったことがある人では、再接種により注射部位の痛み、赤み、しこり等の副反応が、初回接種よりも頻度が高く、程度が強く発現することがあります。

#### ● 予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ②重い急性疾患にかかっている方
- ③このワクチンの成分またはジフテリアトキソイドによってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方